

sousei

そうせい

2011年2月

No.152

特集

世音に耳を澄ます。
もっと社会とつながる—お寺ケーススタディ②



世音に 耳を澄ます。

もつと社会とつながる
お寺ケーススタディ②

寺院のあり方が問われている中、「もつと社会とつながるために」様々な取り組みに乗り出している寺院を紹介してきた本特集。今回は、里山再生に取り組み寺院と、NPO的寺院の先駆けである寺院を訪ねます。また、本特集の総括として、担当者が、取材を通して感じたことを語り合います。

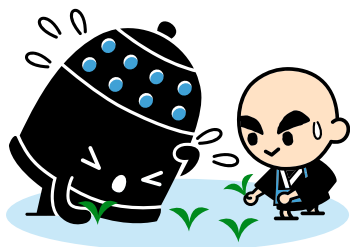
里山再生を通し 人と自然のつながりを再構築

上総自然学校◎千葉県・真光寺

山間の集落である袖ヶ浦市川原井の小高い丘の上に位置する「曹洞宗瓦谷山真光寺」。このお寺は、樹木葬や生前授戒会などの取り組みでも知られているが、週末や祝日もとなると、親子の元気な声が響き渡る。里山再生活動に取り組み「上総自然学校」である。「米づくり体験」や「里山散策（自然観察会）」、「森林整備」などの活動を通して、真光寺近くにある里山・谷津田の再生に取り組んでいる。これらの活動には、個人単位で参加するケースと、企業や団体単位で参加するケースがあり、檀信徒以外にも広く門戸を開いている。

アウトドア雑誌に取り上げられるなど、知名度を高めているこの「上総自然学校」だが、その活動のきっかけはほんのささいなことだったと、真光寺住職であり、また上総自然学校の代表である岡本和幸住職はいう。

「この寺の住職を引き受けた15年ほど前、お檀家さ



今回sousei本誌にてご縁を頂きました、 滋賀県高島市の曹洞宗・洞源寺様をご紹介します。

施工内容は、開祖様像、高祖承陽大師道元禪師像、太祖常濟大師瑩山禪師像の下地・木地調整(お洗濯)、御三体が一緒に座れる椅子の作成、お位牌の木地調整(お洗濯)、お位牌新調です。ご住職様にはご多忙の中、工房に足を運んで頂きその上貴重なご意見も頂戴しスタッフ一同大変感謝しております。また納品時には「イヤー、これは綺麗なった」と一つ一つ喜んで頂き、洞源寺様の400年記念行事準備のお手伝いが出来たことを心から嬉しく思います。

仏師から一言

古いお仏像には、新品に比べはるかに価値のある場合が多く修理が出来るうちに直すことがポイントです。



施工後



施工前

ご住職のニーズに合わせたサービスを心がけて安心・安全な施工に日々勤めています。



日韓合同法要へ参加させて頂きました。

東京都経営革新認定企業となり少しでも皆様のお役に立てれる様精進してまいります。

齋藤商会

ハロークリーン

<http://www.hello-clean.com>

〒151-0053 東京都渋谷区代々木4-22-13-1F

☎0120-918-388



田植え

んは少ないし、境内も建物も荒れていました。なんとかしなくてはと整備に取り掛かり、当時預かっていたオーストラリアのクリス君にこの辺り一帯を覆っていた竹藪を切ってもらい始めたのが、実は上総自然学校の始まりです」。そしてその活動は、樹木葬を始めようと、大学の研究者や学生に真光寺一帯を植生調査してもらった事で大きな転換点を迎える。



草取り



収穫



真光寺住職
岡本和幸師

「真光寺の奥にある谷津田は、かつて豊かな里山であり、オオタカが住むなど、貴重な生態系が残っていることがわかったんです」。そこで、半ば勢いで水田を一枚借り、開墾し始める。当時、青少年教職員を務めていた師は、この豊かな自然を利用して、青少年を対象とした活動を何かできないかと考え、市原、富津の寺院と共同で、「上総自然学校」をスタートする。しかし、檀務の合間にその活動を手掛けるのは困難を極めたため、スタッフを「1名」雇用し、少しずつ活動の幅を広げていった。

「もちろん、スタッフを雇用するためには、収入が必要で。自然学校参加者からは一人2千円の参加費を集め、その人件費に充てています。人を集めるためには参加費を低く設定しなければなりませんので、収入は厳しいのが実情です。しかし寺院が出費をしてもやりたいと思えるから何とかやっています」。また、「お寺がやることだったら」という安心感が、多くの人を引き付ける要因ともなっているという。

では、地域の人々との関係はどうなのであろうか。その点を探ねると、師の表情は険しくなった。

「当初は、外から人が入ってくることに反対の人も

少なくなかった。ですが、観光バスで自然学校の参加者が詰めかけてはじめて、自然という宝が地元にあることをわかってもらえ、少しずつ自分たちが暮らす地域が綺麗になってよかったです、感謝してもらえようになってきました」。また、農業を通して、地域の中での仲間も増えて来ているという。

「活動の善悪を訴えずに、地道に人の輪を広げながら実績を積み重ねていくのが大事なかなと思っています」と、表情を引き締める。

多くの自然保護団体がNPO法人格を取得しつつある今、「上総自然学校」はNPO法人格を取得していない。その理由を探ねると、「法人格とは人格のよくなるもので、お寺はすでに宗教法人という人格を持っています。新たに法人格を取る必要を感じていません。上総自然学校は、任意団体という扱いで補助金や助成金もいただいています。そして自然学校は私にとつての宗教活動なのです。仏教の基本理念からすれば、山川草木、すべての生きとし生けるものは平等。道元禅師は、山の景色、谷の響き、それは我が釈迦牟尼の声と姿だ」とも仰っています。要するに、自然が縁起して完成している姿そのものが釈迦様の教えなのだという捉え方をなさったのです

檀家のいない お葬式をしないお寺

應典院寺町倶楽部◎大阪府・浄土宗應典院



寺町で異彩を放つ円形の應典院

大阪市天王寺区には、南北1キロ以上にわたり約30の浄土系寺院が伽藍を並べる下寺町がある。この寺町において、本堂が円形でコンクリート打ちっばなしというひとときわ異彩を放つ寺院が存在する。浄土宗大蓮寺の塔頭・應典院である。

應典院は、檀家制度をよりどころにせず「葬式をしないお寺」として社会に開かれており、地域の文

化拠点となっている寺院である。本堂は劇場として使えるよう音響・照明施設を持った円形のホールであり、個性の異なる2つの研修室も備えている。また、本堂前のフリースペースはオープンギャラリーとして美術展や交流会に活用される。来訪者は年間3万人にのぼり、演劇やワークショップなど100以上の催しが行われる。

應典院代表の秋田光彦師は、1955年に大阪市で生まれ、明治大学文学部演劇学科を卒業後は映画製作の道を進んでいた。やがて、事業に失敗、生家である寺院に戻るが、日本仏教のシステムに阻まれることが多く、当初は戸惑いばかりだったという。

30代の終わり頃に世界の教育を学ぶため、国際協力団体に関わることになる。アジアの仏教国を巡り、そこでタイの開発僧と呼ばれ、僧侶達が自ら社会開

発、地域開発を行う姿に出会う。日本では見られない僧侶達に出会い、衝撃を受けたという。

帰国した頃、世はバブルで都市寺院が地上げの対象になるなど、寺院の存在意義を問われる時代となっていた。師は檀信徒のみの共益だけでは存続できないと考えるようになっていった。

そして、1995年に阪神・淡路大震災が起き、オウム真理教が社会問題を引き起こす。この2つの出来事が師にとって転機となった。師は震災で被災した人々のために支援活動を行うが、そこで被災者に「あなたには、ひとりの僧侶として何ができるのか？」と問われたという。そこで僧侶とは何か、寺院とは何をする場所なのかを改めて考えさせられた。また、オウム真理教の問題で、戦後の社会において



から、教理とも合致します。真光寺にとって自然保護活動は宗教活動。だから、あえてNPO法人格を取らないのです。そのかわり真光寺が全面的にバックアップする。しかしながら、今後自然学校が発展し寺から出て独立採算にするなら、当然NPO法人格の取得は必要でしょうね。企業と組む際や、助成

金を受ける際にNPO法人であった方が都合が良いでしょうね」

最後に、宗侶が日頃から実践すべきことを尋ねたところ、「私自身の課題でもありますが、仏教について興味を持ち、仏教徒としてどう生きるか常に考えることが肝心なのだと思います」そしてまず坐禅会から始めて欲しい、と師は言う。それともう一つアドバイス。「地元の同級生などの友達を集め、何かお寺でできないかなと、思い切ってみたらどうでしょう？ きっと本音を語ってくれるはずですよ。中には教育関係者や、地域の祭りや文化財保存の関係者、障がい者の支援や、自殺防止の活動などの社会貢献活動に携わっている人もいます。そうした人との出会いの中で、自分が関心のある分野での縁があったら、一歩踏み出すことをお勧めします」がむしやらに実践し、継続していくことが自然と

上総自然学校

住所◎
〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

電話番号◎0438-75-7365

Fax番号◎0438-75-7630

ホームページURL◎
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/index.html>

法人形態◎宗教法人

代表者◎岡本和幸師

設立年月日◎平成17年4月

主な活動内容◎
農業(米づくり)体験、里山散策(自然観察会)、森林整備

スタッフ数◎3名

参加者数◎
10~40人/1回(収穫祭には約80名参加)
年40~50回

公益的な活動につながっていくのではないかと。初めから公益性を云々するのではなく、社会に飛び込み、自ら学び、行動して、縁を広げていって欲しい。師はそう結んだ。

(取材・文 長岡俊成 広報委員会委託委員)



演劇(エンゼルメイク・看取りの場面)



寺小屋トーク



僧侶は何をしてきたのかと考えさせられたという。やがて、師は「應典院プロジェクト」を立ち上げ、應典院の再建計画を始動させる。このプロジェクトに関わった4人は、師以外すべて在家の方であった。定期的に檀信徒への説明会を行い、試行錯誤の末に應典院は再建された。

應典院は、日本初の寺院とNPOのパートナーシップとして、宗教法人としての應典院と、各種の事業を担当するNPOの「應典院寺町倶楽部」が協働している。「應典院寺町倶楽部」は、柔軟な組織体でありたいがために、あえてNPO法人格は取得していないという。

「寺の原点として、学び、癒し、楽しみの3つの役割を今日的に再生しようとした」と語る師。應典院はこの3つの機能を持ち、社会に開かれた寺院として活動をスタートした。

師の説く「社会に開く」とは、単なる場所の開放を言うのではない。「寺は人と人が出会う場であり、異なる他者と出会うコミュニケーションとなる必要がある」と語る。当初は新興宗教や自己開発セミナーの方まで来山され、困惑したというが、「檀信徒という保証された関係がなくなるから、一から始めなければならぬ。その分リスクを伴うが、すばらしい出会いがあつて、お寺の潜在的な魅力が發揮されました」という。

應典院では、演劇の劇場として利用されることが多い。なぜ演劇なのか、と問うてみた。

「演劇活動は若者たちのコミュニケーションであり、身体と言葉を使って、人間関係をやり直す場です。應典院では演劇の稽古場も毎日提供しているのですが、フリーターたちが集まっています。ほとんどが非正規雇用ですから、働くことや将来への不安を持っていきます。晴れの舞台に至る長いプロセスにかかわっていく中で、若者たちの生きづらさや生き難さにも出会ってきました。演劇のうまい下手を問う

のではなく、それが磁場となって、学校にも会社にもない人間関係を創り上げていく。演劇は、若者たちに生き方を問い直す貴重な機会となっている、と思います」

次に寺院の公益性について聞いた。

「今『新しい公共』は政策の中、心課題でもあります。それは結構なことですが、寺院は、行政や民間のセーフティネットからまなおこぼれおちる人々の救済に当たるべきと思います。末期患者や自死遺族、ホームレス支援など、若い僧侶たちの意欲的な活動に期待しています」

また、師はNPOと寺院は違う、という。

「NPOは問題解決が目的であつて、そのための手段や効率が問われます。しかし、寺院は、その問題の奥に潜んでいる個人の心の部分にどう向き合っていくかが重要であつて、人間性の根源との対話が本当の役割です。華々しい海外活動も結構だが、まず寺院は自らが立つ地域にこそ目を向けて、関わってほしい」

最後に若い宗侶に対してアドバイスを求めた。

「まず、自分とは異なる多様な人と出会うことです。若い間は、僧侶としてではなく、まず一人の人間として公益活動にかかわってほしい。そこで、失敗したり、苦悩したりする経験が大事であつて、宗派や寺の看板に隠れていては見えにくいものです」



應典院代表秋田光彦師

應典院寺町倶楽部

住所◎
〒543-0076 大阪府大阪市天王寺区下寺町
1-1-27 應典院内
電話番号◎06-6771-7641
Fax番号◎06-6770-3147
E-mailアドレス◎info@outenin.com
ホームページ◎http://www.outenin.com
法人形態◎宗教法人應典院、
非営利組織「應典院寺町倶楽部」
代表者◎秋田光彦師
設立年月日◎平成9年4月
主な活動内容◎
演劇、美術展。ワークショップ、講演会
スタッフ数◎5名
来訪者数◎年約3万人

(取材・文 川口高裕、広報委員会委託委員)

「また現場では必ず教義との葛藤や矛盾が起こります。檀信徒対象ではないので、教義というカードが容易に使えない。その時こそ、自分自身の僧侶としての自明性が問われると思います。外から問われてこそ、成長できるのです。問われながら、また自身自身に問いながら、教えとの対話を積み重ねていくしかないと思います」

流れを変えていくのは若い宗侶たちしかない。師は、力強く期待を述べられた。



コンクリート打ちっばなしのモダンな外観

取材を終えて——担当者誌上クロストーク

全曹青広報委員(委託)

長岡俊成 × 川口高裕

長岡 今回の取材では、個性の異なる4ヶ寺を訪ねました。始めに、4つのケースでの共通点や相違点についてまとめていきたいと思えます。まず、私の印象に残ったことですが、どの住職も熱く語られていたことからそれぞれの取り組みに対する情熱が伝わってきました。

川口 私も同様にどなたからも強い熱意を感じました。やはり、これが一番の原動力ではないでしょうか。

長岡 寺族の協力も不可欠です。檀信徒や共鳴してくれる方との強い連帯感、寺院を支えてくださる方は貴重な人的資産です。普段から信頼関係を構築していくことが大切ですね。

川口 そして、活動を始めるきっかけは、意外にも単純なことや、誰しもが考えられることが多いように感じました。

長岡 そうですね。ただ、実際に行動に移すとなれば粘り強く、忍耐強くやっていく覚悟が必要です。長年にわたる地道な努力あってこそ活動が可能になると思います。

川口 また、どのケースでも集まり易さや安心感など寺院である利点を活かし、地域のニーズに合ったことをされています。『二塚よりどころ』は、共働きや高齢化が進む地域で、お年寄りから子供までが安心して暮らせるような社会を作るために活動を始められています。

長岡 他の寺院が地元の協力を得て活動を始めたのに対し、『上総自然学校』は地元の協力がなかなか得られないということで、広域から志や目的を共にする人を集め、活動を展開していかれました。外部の目で、地元の様々な価値に気づいてもらい、外から地元の人を巻き込んでいます。

川口 NPO法人格の取得については意見が分かれました。それぞれの活動が、社会に認知されるべきと考え、積極的にNPO法人格を取得するケースと、公益は寺院のあり方として当然のこととする考えや、活動の幅を広げるためにも法に縛られ

より良き「縁の場」であるために



長岡俊成



川口高裕

たくないという考えからNPO法人格を取得する必要はないと考えるケースがありました。

長岡 次に、公益法人である寺院のあるべき姿についてです。実際に、活動の内容によっては地方であっても都心部から人が集まってきています。そして更に活動の幅が広がっていきます。これは希望のあることです。

川口 これは『應典院寺町倶楽部』の秋田師のお言葉ですが、昔の寺院は地域の公益の拠点でしたが、それが今では国や自治体が担っています。昔のように、「地域のよりどころ」となって、誰もが気軽に立ち寄れる寺院作りをする必要があるのでしょうか。

長岡 最後に、宗門寺院や宗侶が実践すべきことについてです。どの師も、お寺という枠を飛び出して一人の人間として社会に飛び込むことが必要だと説かれています。そして、「まだまだ僧侶は期待されている」という言葉は大きいですね。期待されている以上は、最後のチャンスだと思っただけに伝えていくべきです。私たち僧侶に対して信頼を寄せてくださる方がおられるということをお念頭におき、僧侶として自信を持って行動していきたいです。

川口 お檀家さんたちだけでなく、地域へ広く情報発信できるようにする必要がありますね。そして、まずは持続させるということからも、坐禅会のような身近なこと、私たち曹洞宗宗侶が取り組むべきことから始めていくことが大切である、と伺いました。

長岡 『燭光』の一戸師のお言葉が印象に残ったのですが、僧侶の衣のベールを脱いで、人々の苦悩に寄り添い、仏教者として何ができるか、何をすべきかを真剣に考えることから、活動は始まるのですね。そして、どんな小さなことでも、まずは活動を始めることで、縁が築かれ、さらにその縁が縁を呼び、活動の幅が広がり、活動が深まっていくのではないのでしょうか。

- 2 **特集 世音に耳を澄ます。**
もっと社会とつながる—お寺ケーススタディ②
- 8 全曹青第4期副会長 故・長井福雄老師を偲んで
全曹青、発信せよ
臨時評議員会・総会開催レポート
委員会、只今活動中。
- 12 加盟団体ニュース・スポット
東北・東海・中国管区大会レポート
souseiぱれっと 曹洞宗長野県第一青年会



- 14 賛助費浄納御芳名簿
- 16 あまみずのダイアログ 12
彼女の生き方～Five Stories～(前編)
- 18 お坊さん婚活心得 4
- 19 お寺暮らしのライフデザイン 4
- 20 きめぐり 街めぐり 7
数々の呼称で知られる伊予の名刹
護国山高昌寺を訪ねて
- 23 メメント 生死を想う 7



表紙写真・制作・撮影／日山賢吾(三重県 栖雲寺)

増補改訂 松下龍吟 檜崎一光老師語録

遠藤友彦監修 叢林を離れずひたすらに坐禪に打ち込み、四国瑞成寺で多くの人材を育てた檜崎老師。生涯にわたる語録から珠玉の千余首を収録。 15750円

曹洞宗 枕経・通夜・忌日説法

佐藤俊明著 『修証義』と宗門の教義に基づき、法要別に心にしみる例話を収録。法要に持参し遺族の前で読み上げられるよう造本を工夫した。 4935円

曹洞宗 法名・戒名の選び方

永久岳水著 『曹洞宗行持の仕方叢書』①の現代表記版。曹洞宗における法名・戒名・法号・道号等の全てが分かる。巻末に聖号の参考実例を付す。 2940円

曹洞宗 応用自在 引導法語選

広瀬玄麟著 『曹洞宗行持の仕方叢書』⑧の現代表記版。下炬篇、奠湯・奠茶篇、鎮籠・起籠篇、雑篇の法語原文・読み方・字義で構成。 3990円

曹洞宗 葬式・法事の仕方

茂木無文著 『曹洞宗行持の仕方叢書』⑩の現代表記版。在家の葬式、法事、告別式、念誦・回向の意義、出家の葬式を、克明に解説する。 3570円

曹洞宗 位牌・石塔・率都婆の心得と書き方

永久岳水著 『曹洞宗行持の仕方叢書』⑫の現代表記版。墓所に正しく墓を建て、率都婆を正しく建立して先霊の幸福を祈るための懇切丁寧な解説。 3570円

DVD 曹洞宗行持の仕方 全六巻

曹洞宗教化研修所監修 曹洞宗の基本的な行持・作法を映像であまねく伝える。各巻メニュー画面から、必要とする行持・作法を素早く検索。繰り返し見ても容易。各巻約120分 各13125円

- ① 基本作法・基本進退作法
- ② 出家得度式・首座法座
- ③ 晋山式Ⅰ・Ⅱ
- ④ 開眼法・撥遣法・尊宿葬儀法
- ⑤ 開山忌(永平寺流・総持寺流)
- ⑥ 拈香法語・三帰戒・法益道場法・円鏡・大般若会の仕方



国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427

http://www.kokusho.co.jp (税込価)
sales@kokusho.co.jp

全曹青、発信せよ。

平成22年度 臨時評議員会・総会 開催レポート

防災ボランティアを考える学習会

臨時総会の様子



第19期会長(予定者) 松岡広也師

議事進行の結果、静岡県第一宗務所青年会 松岡広也師が選出されました。

第1号議案 第19期全国曹洞宗青年会 会長選考承認について

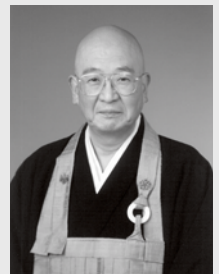
続いて14時30分より、災害対策の研修会として、山口県曹洞宗青年会会長の大野泰生師、東京災害ボランティアネットワーク事務局次長の福田伸章氏を講師に『災害ボランティアを考える学習会』を行いました。その後、16時より臨時総会が開催されました。開会の辞の後、議長団の選出が行われました。

- 第1号議案 各委員会等活動経過報告
- 第2号議案 会計中間報告
- 第3号議案 特別委員会活動経過報告
- 第4号議案 全日本仏教青年会 活動経過報告
- 第5号議案 第19期全国曹洞宗青年会 会長選考について

臨時評議員会は、開会の辞の後、三帰礼文唱和、端座に続き、久間会長による挨拶、議長団の選出が行われ、議事進行の結果、左記の議案が承認されました。

11月22日(月)13時より、曹洞宗檀信徒会館5階研修道場に於いて、平成22年度全国曹洞宗青年会臨時評議員会が開催されました。

長井福雄老師は佐賀県佐賀市の中心、宗龍寺の四男として生を享けられ誠実温厚な人柄に加え大変読書家であられました。厚い信頼のもと永平寺での修行を了え切望されて、昭和46年佐賀県第一宗務所十六教区唐津市長徳寺に養子として迎えられ、以来今日に至るまで長徳寺を護り、檀信徒の方々を導いて来られました。高い見識と旺盛な活動によって老朽化した伽藍を一新し、寺門の興隆はもとより檀信徒の教化にめざましく勤められ、更に布教師として何時も向上心を失わず勉学に励み、常に時宜えお世話のお説法を数多く遺されました。高い教養と勇氣ある決断力を持つて九州曹洞宗青年会を立ち上げ、自ら初代会長として活躍され、また時至り、九州祖門有道会を創立し会長として重責を担われ、組織教化に尽力なされました。また一方では十年程前より、先日ご還化された佐賀県伊万里市広厳寺住職大



全曹青第4期副会長 故・長井福雄老師を 偲んで

宅弘海老師の呼びかけに応じ『世界遺産巡り』シルクロードの旅に始まり、インド・中国・東南アジア各国と仏教徒の信仰、文化及び風習等々学び各地佛跡巡拝。奥様もご一緒され楽しんでました。海外での優雅な旅が思い出されます。

また老師は多くの趣味をお持ちでした。なかでも囲碁が大変お好きで、時間があれば碁を打っておられたようです。

最期はその大好きな囲碁を(長徳寺様の)総代と囲み、打ち始めて間もなく碁盤にもたれながら忽然として静かにご還化なされました。まさに禅僧らしい往生でした。寂しく悲しいきわみでしたが四十年もの長い間ご厚情賜りました。まだまだ今後成すべき多くの事を心中に懐いて居られた事と思えます。惜しまれてなりません。

在りし日のお姿、数々のお話を思い起こし万感胸に迫る思い切なるものがあります。老師の大寂定中安穩をお祈り申し上げます。

佐賀県 妙音寺 合掌
向 隆光九拜

委員会、只今活動中

執行部

＊昨年の10月26日、韓国ソウル市・曹溪寺に於いて、日韓国交樹立45周年を記念し「新しい絆を築こう 曹洞宗訪韓 仏教交流集会2010」（主催 曹洞宗 全国宗務所長会 大韓仏教曹溪宗韓国仏教文化事業団 韓国観光公社）が開催されました。当日は全国の宗務所から宗侶・寺族・檀信徒約600人の参加を仰ぎ、2回に分けて大雄殿（本堂）での日韓両国の僧侶による慶讃法要が執り行われました。

その後ホテルで日韓仏教徒交流レセプションが開かれ、歌手の井上祐見氏による記念歌「新しい絆をつくろう」の発表、また韓流スターのチ・ジニ氏からの歓迎の挨拶、また梅花流詠讃歌の奉詠もあり、多くの参加者を喜ばせました。全曹青もこの事業に協賛し、久間会長他12名が参加し、記念法要の準備・法要の一切・法要解説等を担当しました。



日本・韓国両国の僧侶が共に法要を



日本側導師は全国宗務所長会長



久間会長以下、全曹青からの参加者

法式委員会

＊『二師侍者心得』再刊、『DIGI そうせい～出班焼香法』制作の両事業に目途が付き、残る面山瑞方編『洞上僧堂清規行法鈔』刊行も、文面のデータ打ち込みが終わり、校正作業と並行で、文面を読みやすくするための整形を行っています。残りの期間、事業成就を目指して精進します。お楽しみに。

基幹事業委員会

＊現在、毎週日曜日に開設されております『観世ふおん』電話相談窓口を16人の相談員体制で運営しているほか、事業総括として、各研修会に於いて会員の皆様から寄せられた意見を集約する作業、研修内容の再検討作業、社会資源資料集の作成作業を行なっています。

広報委員会

＊昨年末に、旧『般若』にございましたイラストダウンロードのコーナーを再設し、利用可能になりました。また現在、かつて全曹青の広報委託委員として『sousei』の表紙やイラストを担当頂いた広瀬知哲師（株式会社 zigen 代表）に新たなイラストを発注し、年度内に追加アップ致します。

全日仏青

全日本仏教青年会では、今17期の集大成として「TERRAへ祈る」と題し全国大会を開催します。テーマは、「世界を知ろう、未来を変えよう！」です。日本と世界の子供との架け橋です。

TERRAへ祈る

会期 平成23年3月3日(木)18時～
会場 恵比寿ガーデンホール
参加費 無料
HP <http://terra-inoru.com>
主催 TERRAへ祈る実行委員会
後援 カナダ大使館

●●●●●梅花流法具販売指定店●●●●●
法衣・袈裟・打敷・寺院荘厳具・京仏壇・京仏具

安藤 株式会社

京都市東山区古門前通花見小路東入(☎605-0081)

☎0120-29-8161 法衣部
☎0120-29-8165 仏具部
☎0120-19-8168 贈答品部

東京店/東京都港区芝2-15-2(☎105-0014)
☎: 0120-3232-09
福岡店/福岡市博多区上呉服町12-7(☎912-0036)
☎: 0120-2143-22



東北管区大会：記念講演 水谷修先生

東海管区大会：会場全景

中国管区大会：桂歌丸師匠



「東北・東海・中国管区大会」 レポート

Active Report from 3 Regions

「東北管区大会」

概要報告

平成22年11月10日(水)、仙台市サンプラザに於いて、第35回曹洞宗青年会東北地方集會宮城大会併催宮城県曹洞宗青年会創立40周年記念大会を「われはほとけにならずとも」のテーマで開催いたしました。

当日は11時より、東北地協常任幹事会、13時より記念式典、15時より記念講演が行われました。

記念講演には、現代に於ける様々な問題の中でも急務と言われている、犯罪の低年齢化、薬物いじめ、引きこもり等、青少年を蝕む問題について、まさに菩薩行の如き活動を続けていらつしやる「夜回り先生」として有名な水谷修先生を講師にお迎えし、「あした、笑顔になあれ：夜回り先生からのメッセージ」と題して自ら経験されてきた事例を交えながら、非常に熱の入ったご講演を頂きました。また、青少年の心を癒せる場としての寺院の開放について等、今後の青年大会活動のみならず、僧侶としての生き方の指針となるお言葉も頂戴いたしました。

宗門よりは、来賓を含めた参加者は約150名を、記念講演には一般開放として千名を超える来場がありました。

宮城県曹洞宗青年会会長 門脇昌文

大会を振り返って



会長 榑山 武浩
東北地区曹洞宗青年会
連絡協議会会長

仙台市にて開催された第35回東北地方集會は、県内外より千名を超える参加を頂き、無事円成することができました。

この集會は「東北は一つを合言葉に、東北6県が輪番制にて毎年開催しておりますが、昨年から大会運営に関わり、私自身感じたことは、大会に携わった「人と人との絆」が会を重ねるごとに深まっていくということでありませう。私達はこれから先も「一期一会」を大事にし、「絆」を深めて参りたいと思います。



記念式典

「東海管区大会」

概要報告

第34回東海管区

曹洞宗青年会大会 大会テーマ

「和合僧〜つながる喜び〜」

平成22年11月15日(月) 愛知県

豊橋市ホテルアソシアにて、16

時より開会。東海管区曹洞宗青

年会会長・前田福之師にご挨拶

を頂き、引き続き全国曹洞宗青年

会会長・久間泰弘師よりご祝辞

を賜りました。大会記念公演と

して、講師・旭堂南鱗師によ

る『道元禪師御一代記』を拝聴い

たしました。参加人数東海管区

曹洞宗青年会会員134名。

18時30分より懇親会。当青年

会会長・佐藤善章より挨拶申し

上げ、引き続き愛知県第二宗務所

所長・伊藤章寛老師よりご祝辞

を賜りました。参加人数東海管

区曹洞宗青年会会員124名。

平成22年11月16日(火) 愛知県

豊川市エースボール豊川にて、

ボーリング大会を10時より開催

いたしました。参加人数東海管

区曹洞宗青年会会員74名。

(団体優勝)

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会

(個人優勝)

静岡第三同志会 植松公彦兄

大変多くの会員諸師にご参加頂

き、無事円成することができまし

た。誠にありがとうございました。

大会事務局 小原良淳

大会を振り返って



大会実行委員長 岡田宗雄
愛知県東三河曹洞宗青年会

今大会の開催の約1年半前に
大会事務局を立ち上げ、開催日
が近づくにつれ、より多くの議
論、打ち合わせをしてまいりま
した。

大会を必ず成功させようとい
う会員一人ひとりの思いが一つ
になり、支え合うことの大切さ
、共につながっているという喜び
を強く感じた大会であった様に
感じます。

今回得た経験は、当青年会が
同じく主催する第37回東海管区
曹洞宗青年会大会の開催に間違
いなく役立つ事でしょう。



ボーリング大会

「中国管区大会」

概要報告

第33回中国曹洞宗青年会山口

大会を11月11・12日に山口市湯

田で開催しました。

初日は保健会館に750名が

集い、開会式・山口曹青のタイ

山岳少数民族教育支援活動の報

告・チャリティ寄席を行いました

た。

春雨さんや雷太さん、三遊亭

遊雀さん、江戸屋まねき猫さん、

そして真打の桂歌丸師匠の話芸

に、会場は笑顔であふれていま

した。

2日目はホテルにて青年僧80

名で開催しました。總持寺後堂

盛田正孝老師からは「教学は教

化によって現実化する」と題し

ご講義頂きました。

優しい中にも厳しさを込めた

語り口調で、僧侶であることの

自覚・そして心構えをお話し頂

きました。

全曹青基幹事業委員長長秋吉龍

成師からは、電話相談について

研修頂きました。

事例を基に班毎で話し合い意

見交換することで、傾聴の大切

さと心構えについて学びました。

上求菩提・下化衆生について

認識を深める事のできた有意義

な研修でありました。

山口県曹洞宗青年会副会長 清成良知

大会を振り返って



大会長 大野 泰生
山口県曹洞宗青年会

一般公開講座は檀信徒大会と併
催させていただくことが多かった
のですが、今回は青年会単独での
企画運営だったので、来場者の参
加見込みがつきませんでした。そ
こで参加希望者が多かった場合、
少なかつた場合の両方に対応する
方法を、時間をかけて話し合いま
した。県内の御寺院様に取りま
めて頂き、チケットを配布するな
どした結果、800名の会場に約
750名の方々に参加いただくこ
とができました。大会運営につい
て良い勉強をさせて頂きました。



講義の様子(講師: 總持寺後堂 森田正孝老師)

沿革

曹洞宗長野県第一青年会は、昭和44年に初代会長新津大隆老師を中心に発足した。平成21年に創立40周年を迎えた長い歴史のある会である。「歳末助け合い托鉢」などの活動は発足当時から今も続いている。当初は長野市から上田市まで約40kmの道のりを、途中屋代の満照寺様で1泊し、2日間かけて托鉢していたそうだ。昭

和46年には、当時宗務所庶務主事をお勤めになられていた南澤道人老師(現大本山永平寺副貫首老師)もこの托鉢に参加され、同じ道のりを会員と共に歩かれたという。最終目的地だった上田市月窓寺様に到着された時、副貫首老師は足の豆が潰れていたというお話をお聞きした。

また、20周年を迎えた頃に、現在も製作が続いている禅Tシャツが初めて作られた。(橋崎一光老師に御染筆頂いた「禅」の文字を背中

にプリントしたものの。)このTシャツの売り上げは、当時雲仙普賢岳の被災地の皆さんに合計100万円寄付されている。以後Tシャツ販売を継続し、その売上金から多方面の施設に車イスなどの寄付を行っている。そして、平成5年頃より今日に至る5つの委員会による活動の「基礎」が作られた。

更に平成11年3月には創立30周年の記念講演会が開催され、発心寺専門僧堂長原田雪溪老師を拝請し「二大事因縁について」と題し



曹洞宗 長野県第一 青年会

設立	昭和44年発足
会長	山口泰祐
副会長	小宮山義光・斎藤智是 小林亮宏・萩原広道 秋山時慶・丸山祥存
参与	伊東盛弥
事務局長	水澤光正・正木良道
執行部	佐藤賢龍・山口文元
委員長	小野崇之(ボランティア) 秋山和範(法式) 木村法幸(布教) 山崎造成(坐禅) 田村朋順(各種研修・人権)
支部長	12名(各教区より)
会員数	106名(平成23年1月1日)

現在の活動

ここでは主に5つの委員会での活動内容を取り上げる。

1 ボランティア委員会

毎年、前述の禅Tシャツを製作販売し、その売上金より各方面の施設、災害などが起これば、その被災地に寄付を行っている。その他、バザーなどにも取り組みお寺や福

2 法式研究委員会

本年度は、松代の長国寺専門僧堂を会場に三村契一堂長老師を拝請し、三仏忌の研修を行った。その折、三村老師より疏の作り方やその意味などについて講義を拝聴した。

3 布教研究委員会

初めての試みだったが、昨年から会員2名に各々のテーマで法話を

4 坐禅研究委員会

毎年2月に一日摂心会を企画している。全国的にも珍しいと思うが、臨済宗建長寺派管長吉田正道老師を拝請し、坐禅の後に建長寺御開山蘭溪道隆禪師の「坐禅論」の提唱が行われている。老師をお招きし、今年ですでに5回目の接心となる。

社施設を会場に実施している。依頼し、拝聴する法話研修会を行った。拝聴後、その法話の内容や布教の在り方について会員同士が忌憚無く意見交換をした。

た講演を頂いた。

そして現在、年間の活動として緑蔭禅の集い、禅文化講座、長野県梅花大会、歳末助け合い托鉢などの随喜の他、前述の5つの委員会(ボランティア、法式、布教、坐禅、各種研修・人権)活動を中心に活発に運営されている。その他にボランティア活動にも積極的に取り組んできた。平成16年新潟県中越沖地震の時には、すぐに被災地に赴き、炊き出し等の支援活動を行った。

今後も地域社会、及び会員同士の連携を深め更により良い会に発展できればと考えています。



第47回緑蔭禅の集い(臥竜山興国寺)



スタッキー妙眼老師



秋葉玄吾老師



鈴木包一老師

5 各種研修・人権委員会

毎年3月に駒澤大学教授池田魯参先生を拝請し、正法眼蔵の勉強会を行っている。今年で24回目の眼蔵会となる。その他、人権問題にも取り組み、先年は群馬県草津にあるハンセン病国立療養所栗生楽泉園への現地研修も行っている。

40周年記念講演会

昨年11月20日 (土)、善光寺大門パティオ内にある「日和カフエ」を会場に、創立40周年の記念講演会を開催しました。テーマは、「アメリカに広がる曹洞禅」。

講師に、大本山永平寺後堂鈴木包一老師、オークランド好人庵禪堂住職秋葉玄吾老師、サンフランシスコ禅センター住職スタッキー妙眼老師を拝請し行いました。カフエという場所を選んだのは、我々青年会員と同じ世代の一般の方達には是非足を運んで欲しいというねらいがあったからです。

当日は、会員、来賓関係者、一般参加者、合わせて60名程のこじんまりとした講演会でしたが、会場内の雰囲気はとても良いものでした。残念ながらスペースの都合で当日の講師さんのお話の内容まで触れることができませんが、アメリカの禅センターは、日本の寺

院に比べてとても風通しが良いように感じました。檀家制度が無いのが禅センターの色々な工夫により集い大勢の人達が交流しているのです。檀家制度(家族)の形が変わろうとしている現代の日本において、特に我々青年会世代が寺院を運営するにあたり、とても参考になる取り組みがそこにあるように思いました。

最後にこの講演会が開催できた事を、講師をお務め頂いた3人の御老師をはじめ、今までの礎を築いてくださった先輩諸師各位、ご協力頂いた会員各位に深く感謝申し上げます。

余談ですが、スタッキー老師の申し出で講演会当日の朝、私の師寮寺で暁天坐禅を一緒にお勤めしました。AM5時にホテルまでスタッキー老師を車でお迎えに行くので、すでに黒衣で袈裟袋を持ち玄関の前で待つておられました。今振り返ってみるとその立ち姿がとても印象に残っています。

(第20期会長 山口泰祐)

Let's Begin!

やがて迎えるであろう50周年の記念事業に備え、なるべくコンパクトに、しかし平素ではできない事をしたい。「カフエで何か

しない?」から始まった今回の記念事業であった。

山口現会長の素案を元に、企画内容・会場等々が徐々に具体化され、善光寺様の門前のカフエにてアメリカのサンフランシスコ禅センター現住職ステイブ妙眼スタッキー老師をはじめとした他2名のご老師をお招きしての講演会の決定となった。

道元禪師が命がけで海を越え、日本に伝えた曹洞禅を、今度は多くの先達が未開の地に開教師として渡り、人々の布教化に邁進された。その中の一人、サンフランシスコ禅センターを創立された、鈴木俊隆老師にゆかりのある老師方を迎え、今や世界の最先端に立つ「アメリカ」という地に於いて曹洞禅が、しいては布教化の場としての禅センターがどのような役割を果たし、その集う人々の求めるところの宗意安心そして、地球との関係等々について、是非講演を頂戴しようという事となった。ゼロからスタートして新しい宗教を広め導く迄には、どんな道程があったのか、どう継承されたのかをお聴きしたかった。

また一方では、ホールや会館という広い舞台を借りての大きな行事ではなく、気軽に立ち寄れる街の喫茶店で、お茶を飲みながらの小さな講演会(法話の念を實施して)をみることで、これからの可能性

を見出せるのではないか、という目論見も大きな目的の一つであった。

当日の内容については、その日その場に居た者だけが感じられたこと。結果いろいろと反省すべき点は有って当たり前、しかし思い切つてこの機会を使わせて頂いたことは大成功であったと自負している者の一人である。我々青年僧の無限の精進を祈念して止まない。

(実行委員長 丸山祥存)

曹洞宗長野県第一青年会

40th Anniversary

曹洞宗長野県第一青年会40周年記念講演会
 テーマ:「The Sounding of Zen - アメリカに広がる曹洞禅」
 講師: 鈴木包一老師(大本山永平寺後堂)
 秋葉玄吾老師(オークランド好人庵住職)
 スタッキー妙眼老師(サンフランシスコ禅センター住職)
 日時: 平成22年11月20日(土) PM4:00~
 場所: 善光寺大門パティオ東側
 「日和カフエ」TEL026-237-6636
 入場無料
 曹洞宗長野県第一青年会事務局 e-mail:sotozen4naganano@gmail.com

鈴木 包一 老師
 大本山永平寺 後堂
 善光寺長寿寺 師範部 住職

1929年生まれ。1965年、サンフランシスコ禅センター創立。鈴木俊隆老師の直傳者として米国での活動となる。2009年、大本山永平寺 師範部 住職に就任。

Hotei Suzuki is a son and Dharma heir of Sharyu Suzuki, the founder of San Francisco Zen Center. Since 1969 he has been an abbot of Hotei in temple in Yano city, Shikoku taking over his father. In 2009 he was appointed to lead the Zen practice at Tenri at Elginjima, and since 2009 has been Guide or director of Zen practice at Dharma Elginjima. He has achieved His Dharma in Kyoto.

秋葉 玄吾 老師
 アメリカ・オークランド市 好人庵禪堂 住職

昭和11年生まれ。1965年、曹洞宗の修行者として米国に渡り、1970年、サンフランシスコ禅センターの創立に参加。1975年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。1980年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。1985年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。1990年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。1995年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。2000年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。2005年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。2010年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。2015年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。2020年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。

Geppo Akiba is founding abbot of Kijiro in Zen in Oakland California. He was born in Tokyo in 1945. He graduated the Department of English Literature at Kenyaku University and began 7 years of Zen training at Elginjima. He received Dharma transmission from His Dharma Teacher in 1970. He joined Zen practice at San Francisco Zen Center and Minnesota Zen Meditation Center for 18 months from 1980. Returning from U.S. he was assigned as an officer at Elginjima monastery for 3 years. Between 1987 and March of 2010 he served as a Bishop of Kito Zen Office in America as well as an abbot at Zenshoji temple in Los Angeles.

スティーブ 妙眼 スタッキー 老師
 サンフランシスコ禅センター

1971年、米国の禅センター。1980年、鈴木俊隆老師の直傳者として米国に渡り、1985年、サンフランシスコ禅センターの創立に参加。1990年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。1995年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。2000年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。2005年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。2010年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。2015年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。2020年、サンフランシスコ禅センターの住職に就任。

Myoguo Steve Mikiy is Co-Abbot of San Francisco Zen Center. He began Zen training in 1971 and received Dharma transmission from Abbot Seien Mal Weisman in 1985 in the lineage of Sharyu Suzuki. He is also the founder of Sharyu Zen Zen Temple in Morris County and is currently on the faculty of the "Sharyu Zen Institute" (SZI) training. There is a past president of the San Zen Buddhist Association. He has completed a doctoral program in pastoral counseling, and has completed level two training in Integral Family Systemic Therapy. For many years he was a landscape design/contractor and works for his Zen garden with rocks and waterfalls. He and spouse Lane Olan have three adult children and two grand-daughters.

洞門老大宗師 各位

賛助費 現状報告とご協力のお願い

謹啓 貴老大宗師におかれましては、益々御清祥のことと拝察申し上げます。皆様には、日頃より曹青会活動にご理解とご協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。

私ども全国曹洞宗青年会は、全国に50団体、約3000名の会員からなる、曹洞宗青年僧侶の全国組織でございます。当会は、「大衆教化の接点を求めて」という活動理念を掲げ、昭和50年に発足してから本年で37年目を迎え、青少年教化育成、健全な社会の形成を目的として日々活動しております。今期は「いのちの声に耳を澄ます」というスローガンを掲げ、具体的な慈悲行に取り組むべく、電話相談員養成研修の全国開催をはじめ、有意義な事業推進に励み、また、青年会における新たな災害対策整備にも鋭意取り組んでおります。

さて、その活動経費全般、また、実費にてご提供させて頂いております各種頒布物の財源に関しましては、皆様方よりのご厚情による賛助費に支えられており、その割合は年度予算額の三分の一を占めております。

しかしながら、近年の当会では、賛助費の減収という問題に直面しており、このままでは、今後の会務運営が非常に困難になることが予想されます。

その為、当会内での事業再検討は勿論のこと、今年度より「会務会則に関する特別委員会」を組織し、昨年度の臨時評議員会でご意見を頂戴致しました“会費における設定金額の見直し”についても、管区理事並びに評議員各位の声を拝聴しながら、幾重にも検討致しております。

今後、私ども一同は、より一層、御寺院様及び、全国の青年会員各位にご理解頂ける活動に取り組んで参りたいと、思いをひとつにしているところでございます。

つきましては、皆様には全国曹洞宗青年会の現状、また、宗門並びに曹青会の未来をご賢察頂きまして、賛助費へのご協力を伏してお願い申し上げます。

合掌

全国曹洞宗青年会

〈参考〉賛助費御浄納総額と件数の推移

平成21年度	¥ 9,864,000	(2,019件)
平成20年度	¥ 11,627,000	(2,228件)
平成19年度	¥ 11,773,000	(2,472件)
平成18年度	¥ 12,062,000	(2,344件)
平成17年度	¥ 13,428,000	(2,659件)

と き た び こころの時代にこころの旅を

国内団参・海外仏跡巡拝の事なら経験豊かなビーエス観光へお申し付け下さい。

 **ビーエス観光グループ**

賛助費浄納御芳名簿

平成22年
9/11~10/31

●東京都

79 保善寺 様
312 光明寺 様

●神奈川県第2

4 宗興寺 様

●埼玉県第1

106 光厳寺 様

●埼玉県第2

213 泉福寺 様
219 長田寺 様
344 光福寺 様

●群馬県

292 光厳寺 様
338 龍松寺 様

●栃木県

85 長谷寺 様

●茨城県

23 源慶院 様
38 蒼龍寺 様
60 円通寺 様
134 大統寺 様

●千葉県

94 長興院 様
357 永福寺 様

●静岡県第1

61 長光寺 様
83 洞福寺 様
109 玉泉寺 様
124 宗徳院 様
126 一乗寺 様
208 延命寺 様

●静岡県第2

289 宝蔵院 様

●静岡県第3

644 利生寺 様

●愛知県第1

18 大運寺 様
182 観昌寺 様

●愛知県第2

684 花井寺 様
722 妙劉寺 様

●岐阜県

167 正宗寺 様

●三重県第1

132 地藏寺 様
181 観音寺 様

●三重県第2

434 萬重寺 様

●京都府

67 苗秀寺 様

●大阪府

56 南昌寺 様
88 正俊寺 様
98 吉祥院 様

●兵庫県第1

55 長命寺 様
393 安養寺 様
451 頼光寺 様

●広島県

95 泉龍寺 様

●山口県

138 善福寺 様

●鳥取県

17 普含寺 様
182 東光寺 様

●島根県第1

209 円通寺 様

●島根県第2

105 東白寺 様
144 福知寺 様

●愛媛県

146 興雲寺 様

●福岡県

102 能満寺 様

●長崎県第1

84 廬山寺 様

●長野県第2

512 浄蓮寺 様
566 広明寺 様

●福井県

162 正明寺 様

●富山県

127 円通寺 様

●新潟県第1

325 興善寺 様
397 善昌寺 様

●新潟県第4

780 観音寺 様

●福島県

29 長勝寺 様
41 石雲寺 様
111 普光寺 様
119 長泉寺 様
188 頊宣寺 様
340 慶徳寺 様

●宮城県

33 玄光庵 様
59 清水寺 様
359 保昌寺 様

●岩手県

52 福蔵寺 様
65 仁昌寺 様
233 玉泉寺 様

●青森県

19 宗徳寺 様
79 法光寺 様
98 東光寺 様
110 長昌寺 様

●山形県第1

36 久昌寺 様
66 法体寺 様

●山形県第2

380 正円寺 様

●秋田県

49 乘江院 様
95 蔵昌寺 様
192 善福寺 様
244 宝泉寺 様
246 福城寺 様
313 立昌寺 様

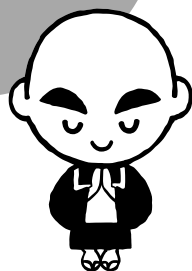
●北海道第2

102 興禅寺 様
508 大乘寺 様

●北海道第3

152 長林寺 様
220 白麟寺 様

全国曹洞宗青年会の活動は皆様の賛助費に支えられております。この度もご協力頂き誠に有難うございました。



両大本山御用達
梅花流法具販売指定店

法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品

 株式会社 梅金商店

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

(本 社) 〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号

(大須交差点東北側)

TEL (052) 241-0901(代表) FAX (052) 241-1904

高丘捷佑

曹洞宗僧侶。愛知県生まれ。大正大学人間学部仏教学科卒。仏教情報センター・テレフォン相談員。現在は島根県松江市・善慶寺に在籍。ドイツでの遊学を通して見た、ホスピスや社会事業による看取りを参考に、現代日本で僧侶として人の生死に直接関わる活動を模索している。



事情があつて実家だったお寺は離れましたが、今は、全国各地で用僧や法話で呼んで頂いています。

それぞれを描くこれから

飯島▼みなさんそれぞれにご活躍なされていますが、その背景にはどんな目的をお持ちなのでしょうか？

緑川▼僧院で、人々が日常生活の雑音から一時離れて、修行だけに集中する場所を作っているのを目の当たりにし、私は日常生活の中でこそ、仏教の智慧を生かすことが大切だと思つています。それで、今年は、道場をお借りして「女性のための仏教ブチ修行」という会を二泊二日で行いました。僧侶でなくても仏教を実践的に体験できる場を提供したいとの思いでした。この試みは年二回のペースで続けてゆく予定です。

三須▼日常の悩みをもつ人を、信仰生活や教団組織に誘うよりも、人生の考え方や選択肢の一

つとして仏教を知ってもらえたら、と思つています。何を選ぶかは人それぞれですが、人生の選択の幅が広いだけで、それは強みだから。私は文章表現が苦手なので、絵などの作品を使つて「仏教にはこんな可愛いものもある」とつていうことを表現・発信しています。

市橋▼仏教と縁遠い人々に、仏教を身近に感じて欲しいですね。諸々の問題を解決し得る手段が、仏教の中に如何にたくさんあるかを伝えたいです。『よみうりカルチャー』で担当している講座では、仏教を「軽く」話しています。私、檀務より布教が好きで、専ら檀務はうちの男二人（父と夫）に任せてます（笑）。

飯島▼市橋さんの結婚相手はお坊さんですよ？

市橋▼布教活動の仲間として出会ったので、向いている方向が一緒。お互いに理解ある「同志」みたいなものです。

飯島▼真言宗には女性の僧侶は少ないのですか？

市橋▼最近が増えてきました。進んで僧侶になった人もいれば、跡取りで仕方なく、という人もいます。私は、僧侶としてこれぐらいいしか出来ることはない、と思つて剃髪しているけれど、長髪を束ねて式衣をつけ、法務をこなしている人もたくさんいます。

緑川▼人は些末な部分を取り上げて非難するし、そういうところで「だから女は…」となりがちですよ。

未だ、曖昧な存在？

緑川▼天台宗では在家出身の女性が活動する場は限られていますが、ずっと活動を続けてゆける人はとても少ないです。先行きが不安ということもあると思います。尼僧団もありませんし、入れるお寺も無いのが実情です。市橋▼豊山派にも尼僧団はありませんし、真言宗で性差の問題があるとするれば、声が高くして読

三須励法

東京都生まれ。2000年に得度。駒沢学園女子中学校から駒沢学園女子高等学校へと進み、駒澤大学仏教学部禅学科卒。2006年から作家活動を開始。アートを通して親しみやすくポップな仏教を目指し、仏教の入り口を広げようとしている。

経の頭出しに当ててもらえない、などの物理的なことですね。条件によつては当てはまらない人もいます。本山に女子トイレや浴場さえ完備してもらえれば、私自身は性差別を感じません。

高丘▼他の宗派と違って、私たちは両本山での修行が認められない。これは宗侶としては大変辛いことです。

三須▼私は、得度はしましたが、僧侶でもなく僧侶としての法務・檀務の実態がなく一般人もない。現状では僧侶として具体的に進むべき道が見えません。私はお坊さんなのか一般の人なのか…。自分の立場をはっきりさせられないという悩みがありますね。

（へ）内、編集部注、文中、一部敬称略。

飯島恵道

長野県松本生まれ。尼寺育ち。看護師としての経験を生かし、医療と宗教の領域を横断する「あまんず（amans=ama〈尼〉+ns〈ナース、看護師〉）」として活動中。



お寺にふさわしい結婚!?

全曹青広報委員 紫安敬道(熊本県曹洞宗青年会)

「リン、リン、リン」お寺の電話が鳴り響く…。お檀家さまが亡くなられたという電話です。これから、一頻りお寺が慌ただしくなります。枕経、通夜、葬儀、火葬と続くだけでなく、その合間にも、以前から受けていた法事等も重なっています。その後も一週間ごとの七日経もあり。それらの行事をようやくこなし、少しは休めるかなと思うと、また「リン、リン、リン」…。これが続くといいかげん誰かお寺の留守番やお茶の相手をしてくれる人、一緒にお寺のためにがんばってってくれる人がいれば…。そう思うようになるのです。普段は結婚願望のない私の脳裏に「結婚」の2文字が頭によぎるのは、決まってこのような時です。

「そ」もそもお坊さんにとっての結婚相手とは、どのような人が良いのでしょうか？話が合う、趣味が合う、人柄が良い、ただそれだけでもなさそうです。

試みに、毎月お経をあげさせていただいているお檀家さまに、「結婚するにはどうしたら良いか」と尋ね回ってみました。普段から結婚の話になると、良いようにはぐらかしていたので、いざそのような質問をする、お檀家さまたちも「待ってました」と言わんばかりの反応です。おかげで色々な意見を伺うことができたのですが、中でも気

になったのが、

「ようやく若和尚も結婚する気になったとたい。そらよかばい。ばってん、結婚相手はお寺にふさわしか人じゃなかといかんばい。誰でっちゃんかわけじゃなかけんね。良か相手ば選ばんといかんよ」とのご諫言です。

早く結婚しなさい？相手はよく見て選び



なさい？どうにも矛盾した内容ですが、お檀家さまが望んでいるのは、どうやら「お寺にふさわしい」結婚相手のようです。

「お」寺にふさわしい「結婚相手って、どんな人でしょう。試みに今度は、宗門でのジェンダーについて積極的に発言しておられる川橋範子先生(名古屋工業学大学院准

教授『女性と仏教 東海・関東ネットワーク』(会員)に尋ねてみました。

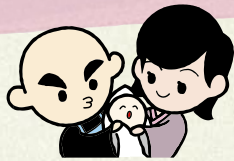
「お寺にふさわしい」なんて問題のある概念の是非はともかく(苦笑)、結局は伴侶に「体のいいメイド役」を求めている限り、世間の人からはあきれられるだけだと思えますよ。私の夫も同じ感想でしたね。」

ハッサリ、です…。でも、川橋先生はどのように語を継がれました。

「でも私は、青年僧侶がそのように考えるのは仕方ない、とも思っています。だってそれは、上の世代の価値基準を、無自覚に再生産しているわけですから。わたしの近くにも、寺族は住職を陰でお世話するのが役目、とか公言する僧侶がいます。私は、青年僧侶には「自立力」を求めたい。伴侶の協力がなくても寺務が円滑にいくのが本来でしょうし、そもそも曹洞宗は「僧侶が自活する」という宗風でしょう？僧侶の結婚を絶対視し、かつ家長制的な「家庭仏教・世襲仏教」を軌範とするあり方は、宗門のマイノリティを排除することにつながると思いますよ。結婚しなくても、子供を作らなくても、それはそれで僧侶として尊重される生き様ではないでしょうか。」

お寺が忙しいから、という理由だけで結婚してはいかんとですね。縁あれば抗いませんが、川橋先生の「結婚はしなくても良い」この金言が、今後の励みになりそうです。

お寺暮らしの ライフデザイン 4



CASE #4 新潟県上越市・楞厳寺様

副住職 石黒英龍師(全曹青広報委員)
裕美さん(妻)

●英龍 このお寺は元々、上杉謙信の重臣だった柿崎景家公の菩提寺で、本堂と山門は、先日に国の有形文化財に登録されました。最近はお寺の周りも人口が減っていますが、今あるものを守っていきたいです。

■間部 伝統を伝えていくことが大切というわけですね。とはいえ人口減少ということはお寺を維持していく上で経済的には大変なのではないでしょうか？

●英龍 見通しが明るいとは言えないですね。この春まで永平寺東京別院で役寮として勤めていましたが、その時と比べると収入が激減して、車に乗っているだけで赤字になるような状況です。妻にお寺にずっといてもらうのが良いのかもしれませんが、現実的になかなかそういうわけにはいかないですね。

●裕美 昨年結婚して、今年の4月からは長岡市の病院に精神科の勤務医として働いていますが、平日は病院の寮に住んで、土日にお寺に帰ってお手伝いをしています。

■間部 大変ですね。でも奥様は扶養家族ではなく、社会的にも経済的にも自立されているわけですね。一方で、お寺での立場を考えた時、僧侶の伴侶であるが故にお寺に住むことができるということも事実だと思うのですが、ご主人に「もしも」のことがあられた場合や跡継ぎがない場合のことは、何かお考えですか？

●裕美 特定代務者としての資格(准教師)は、早目に取っておきたいとは思っています。でも、もし(義理の)両親や夫が先に亡くなって、その後に法・血ともに所縁のない別の方が



聞き手

間部 稔裕

住友生命保険相互会社 長岡支社 基盤統括部長
(1級ファイナンシャル・プランニング技能士【国家資格】)
生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会会員
〒940-8511 新潟県長岡市東坂之上町2-5-11 長岡STビル6F
TEL.(0258)33-5518



ご住職として入られるのであれば、その時は私はここを出るように、結婚前から夫や家族と話し合っていました。それと、夫には「不妊治療は受けません」と伝えています。私も医者として色々なケースを見てきましたが、得てして不妊治療は「子どもが出来るのが目的」で、その後の人生を顧みていないケースが多いように見受けられます。仮に自然妊娠で子どもが出来なかったとしても、それはそれで受け容れる生き方をしたいと思うのです。

■間部 なるほど、しっかりと自身のお考えをお持ちですね。新婚のお二人に適切なお話かどうか分かりませんが…(笑)。万一、お寺を離れるという場合、相当の資金準備が必要になります。ライフプランの観点から申しますと「利息は時間が生む」という言葉があります。「ゆとりのある未来・老後」を創出するためには、奥様の収入も加味した余裕資金を踏まえた上で、なるべく早い段階からの準備が不可欠です。奥様は厚生年金ですが年金開始年齢は65歳からです。まずは奥様の60～65歳の間の「無年金」生活期間に備えた「つなぎ年金」と言われる個人年金や養老保険を考えてはいかがでしょうか。また、保障の点からは、今、日本の家庭の一番の問題は介護です。公的介護保険の1割負担や支給上限額を超えた介護サービスへの備えとして、民間会社の介護保険があります。それと、やはり僧侶といえども体が資本ですし、一番怖いのはガンです。病気や入院に備えた医療保険。これらを「お守り代わりに」ライフプランに組み込まれるのは如何でしょうか。それと、今日のお話を伺っていると、次代への承継についても色々なパターンを想定し補完する備えも必要になると考えられますので、是非宗教法人の退職金制度(『sousei』149号19頁参照)も参考にしたいと思います。

●英龍 実は以前から、妻にも保険について真剣に考えるように言われていたのですが、自分が減収した現状や「お坊さんに定年はない」との思いもあって、今まで“なあなあ”でやり過ごしていました…。

●裕美 でも、今最も先決なのは、定期的な収入が確実にある私に、生命保険をかけることかもしれませんね。

■間部 仰る通りです。(笑)

数々の呼称で知られる伊予の名刹

護国山 高昌寺を 訪ねて



五七〇年の歴史を誇る伊予の名刹。かつては曾根家の菩提寺として栄え、廻廊を配した造りから、本山、永平寺になぞらえて「伊予のミニ永平寺」と称される。文化五年（一八〇八年）の再建では、時の藩主大洲藩二代、加藤泰興公より賜った楠の銘木を材としたことから、別名「楠寺」とも呼ばれる。近年は、日本最大の石造ねはん仏が話題を呼び、「内子のねはんさん」としても親しまれている。

本堂（奥）と中雀門（手前）●本堂の屋根は創建当時茅葺きであった（現在は銅板葺き）。中雀門の左右に廻廊が続く。門は町の有形文化財指定



山門●文化4年（1807年）の火災で唯一焼失を免れた門。旧五城村中土の持宝院から1750年頃移築されたと伝えられる



山門内部に祀られている釈尊

廻廊●僧堂側に続く廻廊。本山、永平寺を模した造りから「伊予のミニ永平寺」とも呼ばれる



内子の北の丘陵地に建つ 曾根家の菩提寺

その歴史は、今から五七〇年前の嘉吉元年（一四四一年）にさかのぼる。防州（現、山口県）、泰雲寺の覚隠禪師門下の十哲、大功円忠和尚が現在の内子町松尾地区に創建した浄久寺が起りとし、その後、天文二年（一五三三年）、現在の地に移された。寺は、時の領主曾根城主従五位下、曾根高昌公の帰依を賜り、曾根家の菩提寺として栄えた。また、内子の北の丘陵地という立地から門前には市が立つなど、繁栄を遂げ、末寺は二十四カ寺が開かれた。

高昌公の逝去後、その諱をとって寺号を高昌寺に、山号は元文五年（一七四〇年）護国山と改められ、「護国山高昌寺」と改称された。

しかし文化四年（一八〇七年）の火災により、創建当時の伽藍は山門、本尊以外すべてが焼失。その翌年、二十三世・興嶽凡隆和尚の尽力によって再建が図られたが、莫大な資金調達には曾根家の子孫や檀信徒からの援助に加え、二十三世自らも托鉢に回ったと伝えられる。



取材にご協力をいただいた皆さま。左から、林証道師、高嶋龍仙師（共に愛媛県曹洞宗青年会広報部）、高昌寺四十一世・高嶋武彦老師、大村博氏（高昌寺総代長・郷土史家）



仏殿に祀られたご本尊、聖観世音菩薩。山門と並んで唯一焼失を免れた貴重な仏像



仏殿の左右に祀られた十六羅漢像(左側)。寺の再建にあたり持宝院より勧請されたと伝えられる



仏殿 ●文化5年(1808年)の再建時、時の藩主大洲藩二代、加藤泰興公より賜った楠の銘木を材とした立派な造り

勸学寮 ●かつては雲水僧の修行道場兼宿泊所であった。改築された現在は寺の行事に利用されている



僧堂 ●修行僧が日夜坐禅に励む道場



仏殿内は前卓(まえじょく)・梁・天井・廊下・欄間・襖に至るまで、無節の楠が用いられている

鐘楼 ●昭和33年(1958年)、四十世・高嶋玄岫和尚の代に、檀信徒からの浄財によって奉納された



開山堂 ●開山を中心に歴代住職の位牌が祀られている建物は昭和50年(1975年)、不燃構造で再建された



扁額 ●大洲藩二代、加藤泰興公の揮毫(きごう)による額。大雄殿とは仏殿の意(町、有形文化財指定)

立派な七堂伽藍と
本山、永平寺を模した廻廊

現在の境内は、唯一焼失を免れた山門をはじめ、立派な七堂伽藍を有する。山門と本堂の間に配された中雀門は、さる武家屋敷から移築されたものと伝えられ、その左右に建つ庫裏と僧堂を結ぶ回遊式の造りが本山、永平寺を模したことから「伊予のミニ永平寺」とも呼ばれている。

また、文化五年(一八〇八年)に再建された本堂は、時の藩主大洲藩二代、加藤泰興公より賜った楠の銘木を材としており、前卓・梁・天井・廊下・欄間・襖に至るまで、無節の材で仕上げられている。その見事さゆえに、「別名「楠寺」と称される。

本堂に祀られたご本尊、聖観世音菩薩像は、山門と並んで唯一焼失を免れた貴重な仏像であり、現在も当時と変わらぬ慈悲深い表情をたたえている。

中国敦煌、漠高窟のねはん仏を模したとされるこの石像は、長さ十メートル、重さ二百トンにも及ぶ。覆殿の中で安らかなお顔で休まれるそのお姿は、「ねはん祭り」の日に限らずいつでも参拝でき、触れることができる。ぜひ一度、訪れてみてはいかがだろうか。

現住職、四十一世・高嶋武彦老師によって建立されたこのねはん仏は、構想から完成まで実に十年もの歳月を費やし、当初は不可能とも思われた巨額の資金も、檀信徒はじめ内外の有縁の方々の方々の尽力によって賄うことができた。

別名「内子のねはんさん」としても親しまれる高昌寺では、お釈迦さまへの感謝や報恩の心に触れていたきたいとの思いから、平成十年(一九九八年)石造ねはん仏が祀られた。

高昌寺のもう一つの宝物は、日本最大の石造ねはん仏である。

その起りとなった「ねはん祭り」は、約二百五十年前に十八世・慈舟台漸和尚によって創始された法要だが、今では内子の春祭りとして毎年三月十五日に執り行われる。町を挙げての祭りには、稚児行列や餅まき、清興などが催され、地元での楽しみな恒例行事となっている。

十年がかりで実現かなった 日本最大の石造ねはん仏



3月15日の「ねはん祭り」で一般公開されるねはん絵(町、有形文化財指定)



現、四十一世・高嶋住職によって建立された石造ねはん仏。安らかなお顔で休まれる姿に心癒される

はちだいにんがく
八大人覺



- お釈迦さまが八十歳で亡くなられたその時、弟子を集めて説いたとされる八つの仏則が「八大人覺」である。その教えとは、
- 一、少欲(しょうよく)・・・欲には限度を持つこと
 - 二、知足(ちそく)・・・足るを知ること
 - 三、遠離(おんり)・・・喧嘩を離れ己を見つめること
 - 四、精進(しょうじん)・・・休まず続けること
 - 五、正念(しょうねん)・・・利害を考えないこと
 - 六、定(じょう)・・・心ひとつに集中すること
 - 七、智慧(ちえ)・・・耳に聞き、心に思い、身に修めること
 - 八、不戯論(ふげろん)・・・無駄な議論は慎むこと
- この八つの戒めを師と思ひ精進を積み、心安らかな日々を過ごすことができる。



歴史と文化を伝える商家の町



町と住民が一体となって支える町並み保存活動

江戸時代以降、和紙と木鐮生産で全国に名をはせた内子。大正期には木鐮は衰退するが、繁栄を極めた当時の町並みを保存するために始められたのが、町と住民とで支える町並み保存活動である。昭和五十七年(一九八二年)、国選定の重要伝統的建造物群保存地区に指定された内子町八日市護国地区には、時代を彷彿とさせる町屋の風情が残されている。

保存地区に今も残る

伝統的家屋と資料館

六百メートルほど続く長い通りの道沿いには百軒以上の家々が連なり、そのほとんどが漆喰とナマコ壁、出格子を用いた伝統的な町屋の家屋である。

約三・五ヘクタールの町並み保存地区内には、国の重要文化財に指定されている、内子最大の木鐮業者の豪邸や、かつての旧家を造り替えた博物館や資料館、今も昔ながらの製法で木鐮を製造販売する老舗ロウソク店のほか、当時の一大娯楽場でもあった芝居小屋等々の貴重な建物が残り、往時の賑わいを偲はせる。



商いと暮らしの博物館
明治初期の薬商を修復し、大正時代の商いと暮らしの様子を再現した博物館(開館：9時～16時半、料金：大人200円・小人100円)

現在も上演されている本造劇場

内子座

大正五年(一九一六年)、大正天皇即位を祝って建立された芝居小屋。当時は歌舞伎や浄瑠璃、落語などが上演され、大いに賑わった。しかし老朽化が進み閉鎖。後に修復され、昭和六十年(一九一六年)から再開。今でも年間八十日近くは公演が行われている。

二百年の伝統を守り続ける
和ロウソクの店

約四十五度に溶かした木鐮を素手ですくい上げ、灯芯に何度も回しかけながら仕上げる和ロウソク。その伝統技法を二百年以上守り続けている、内子で唯一残る和ロウソクの店。店内の工房では、六代目自らが制作する作業風景を見学することができる。

内子最大の木鐮業者
芳我弥三右衛門の邸宅

国の重要文化財に指定される本芳我邸は、内子に木鐮生産の基礎を築いた豪商、芳我弥三右衛門の邸宅である。建物は明治二十二年(一八八九年)。漆喰とナマコ壁の土蔵を左手に、母屋もコテ絵で仕上げた懸魚(げぎよ)や鬼瓦など、見事な装飾が施されている。



コテ絵で仕上げた鶴の懸魚と立派な鬼瓦

■庭園のみ公開 9:00~16:30
■料金 無料



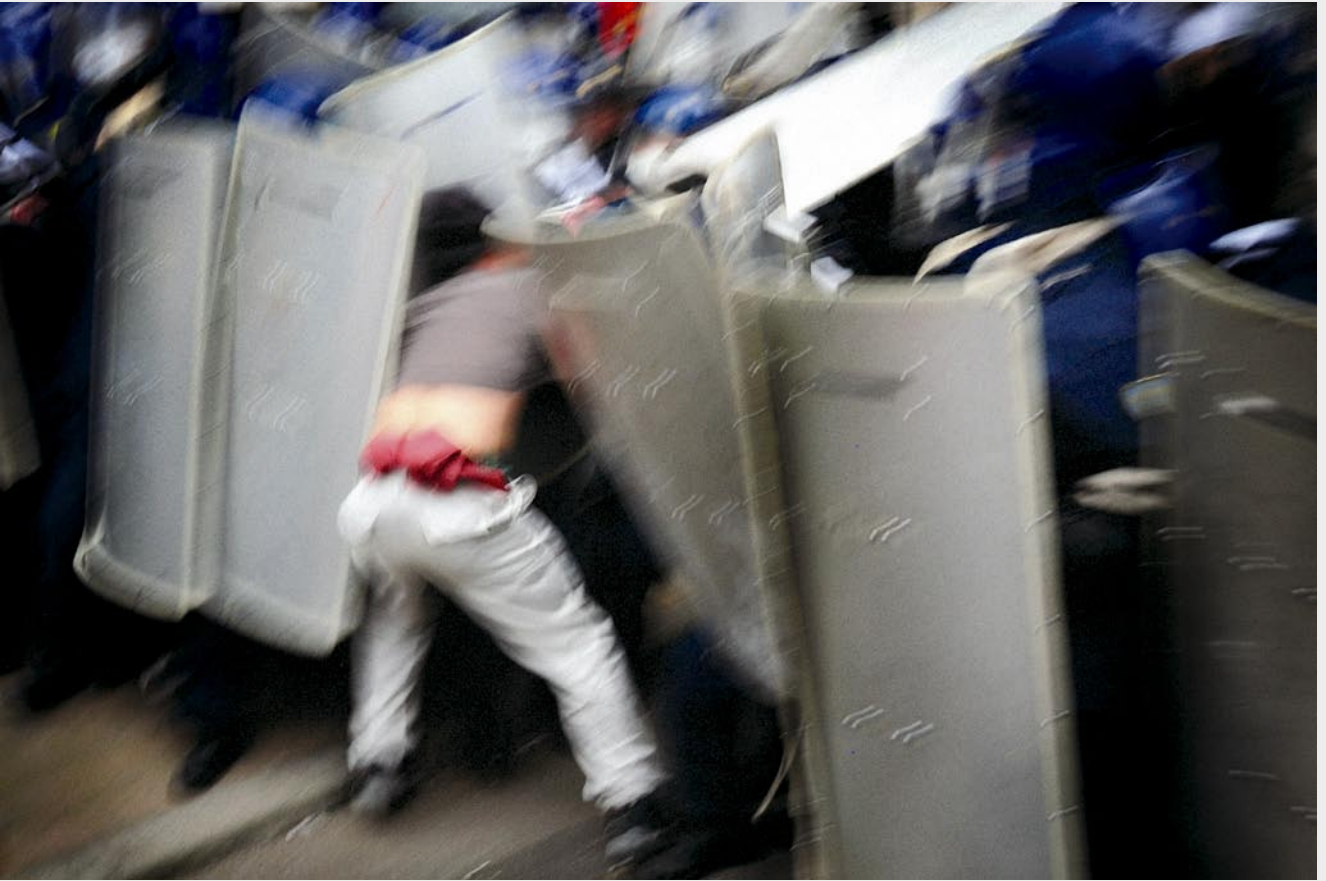
取材協力：大森和ろうそく屋

■営業時間 9:00~17:00
■定休日 月・金



■開演時間 9:00~16:30
■入場料 大人300円/小人150円





多勢に無勢。
滅多打ちにされる男性。

これは日本の一場面である。
けれど、このような写真や映像が
マスコミで流れることは、そうない。
国内での事件、事故の被害者はもちろん、
遠い国の、たとえばイラク戦争の犠牲者が
ありのまま映し出されることも、ない。

たとえばイラクでは国内外の戦争犠牲者たち
を映し出す。
そうして仲間の死を嘆き、悼み、敬意を表し、
暴力を、戦争を、憎む。
そうして権力の構図を、戦争のからくりを、
見抜く。

日本人はどうやって人の痛みを知り、
そして、見抜く――。



(上) 高度経済成長を支え続けた日雇い労働者の最大拠点、大阪・釜ヶ崎にて。08年6月野宿者や日雇い労働者らが機動隊と対峙し、6日間連日暴動が起きた。何十年もの間貧困下に置かれ、景気の調整弁として使い捨てにされ、路上死、襲撃(警察、行政を含む)あらゆる「排除」にさらされ、鬱積していた不満が「警察署員による労働者暴行」を引き金に爆発、多数が負傷した。

(左) イラク戦争で爆発に巻き込まれて犠牲になったイラク市民たち。「既存メディアは本来の役割を果たしていない」として、米兵のイラク市民殺害の米軍映像を含む内部告発による機密情報を世界中に流す「ウィキ・リークス」の活動が最近注目されている。

國森康弘 (Kunimori Yasuhiro)

プロフィール／神戸新聞記者を経て独立後、イラクやソマリア、スーダンなどの紛争地やブルキナファソ、カンボジアなどの経済貧困地を、国内では野宿者、元兵士、高齢者介護の現場等を取材。最新刊に『家族を看取る』(平凡社)。その他『証言沖縄戦の日本兵』(岩波書店)など。コニカミノルタ・フォトプレミオ2010受賞。URL www.kunimorifoto.net/

未来の話をしませんか。

住友生命

子ども絵画コンクール

子どもたちの夢を育み心豊かな成長を願って昭和52年度にスタートしました。優秀作品102点はルーヴル美術館に1ヶ月間展示されます。配付画用紙1枚につき1円、応募作品1点につき10円をユニセフに寄付しています。



Pyramide du Louvre arch.I.M.Pei © G.PONCET

ピンクリボン運動を応援

乳がんの早期発見や早期治療などの大切さを多くのお客さまにお伝えするため、啓発冊子やチラシを作成し、お配りしています。



住友生命は乳がんの早期発見、早期治療の大切さを伝えるピンクリボン運動を応援しています。このピンクリボンマークは、ピンクリボン・フェスティバル（日本対がん協会と宝島）のマークです。



スマイルウォーク2009(東京)の様子

ゆたかな未来づくりプロジェクト

明日を、ちよっといい明日にしたい。そんな住友生命の想いを、保険商品で、社会・文化貢献活動で、カタチにしていけます。

24時間テレビ協賛

平成18年度より日本テレビ他、全国31局共同主催の24時間テレビ「愛は地球を救う」に協賛しております。



サンゴ礁保全プロジェクト

多様な生態系を有し、人間生活に豊かな恵みをもたらしてくれるサンゴ礁の保護活動を支援しています。当社の事業活動に深い「生命」を守ることをテーマに、地球環境保護に積極的に取り組んでいます。



© WWFジャパン

住友生命保険相互会社

本社 〒540-8512 大阪市中央区域見1-4-35

東京本社 〒104-8430 東京都中央区築地7-18-24

詳しくは最寄りの支社またはスミセイメイトまで。〈<http://www.sumitomolife.co.jp>〉

承認番号:124

全国曹洞宗青年会 ホームページ「般若」

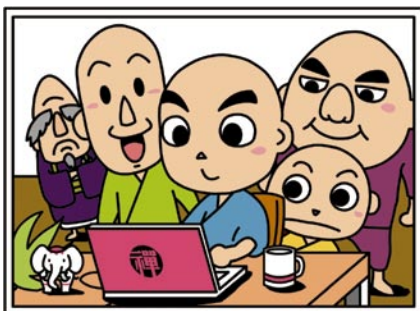
全曹青 般若

検索

全国の曹青会活動をつなぐ情報サイトです。どうぞ御利用下さい！

特設ページ「SouSei on web」(パスワード制)は、誌上の補足情報や特別コンテンツが満載です。

*パスワード「1890」を入力して下さい。



イラスト：広瀬知哲 <http://www.we2ya.jp>

お寺のホームページは欲しいけど、自分で作るのは大変そう...

でも、業者に委託して作れば高額な経費がかかるし...

今すぐ

SanGa

<http://www.sousei.gr.jp/sanga/>

にアクセス!

無料

全国曹洞宗青年会のSanGaで寺院ホームページを作りませんか?

全曹青では、日頃からご支援いただいている全国の曹洞宗御寺院専用の無料ホームページ『SanGa』を制作いたしました。この『SanGa』を使えば、お寺の基本情報・地図・年間行事・歴史由来・告知などを掲載したホームページを簡単に作る事ができます。是非この機会にお寺のホームページをお作りいただき、山門行事の広報にお役立てください。

